

日本・ペルー共和国外交関係樹立 150 周年～ペルーってどんなところ？～

ペルーと聞いて、インカ帝国、マチュピチュ遺跡やナスカの地上絵を思い浮かべる方は多いと思います。今年は、日本とペルーの外交関係樹立 150 周年の節目の年です。

ペルーは日本が中南米で最初に外交関係を樹立した国であり、ペルーにとって日本はアジアで最初に外交関係を樹立した国です。また、愛知県には、日本で 2 番目に多い 7,788 人のペルー人の方が住んでいます。(2022 年 6 月現在 法務省「在留外国人統計」) 今号では、そんなペルーについて紹介します。



ペルー共和国は、南アメリカ大陸の太平洋沿岸にあり、南米で 3 番目に大きい国です。16 世紀までは、インカ帝国の中心でしたが、1533 年にスペインに征服され、スペインの植民地となりました。その後、1821 年に独立しました。

基本データ

首都 リマ
面積 128 万 5,216 km² (世界ランク第 19 位 日本の 3.4 倍)
人口 3,300 万人
言語 スペイン語 (80%)、ケチュア語 (16%)、その他 (3%)
通貨 ニエボ・ソル



多様な国土



アンデス山脈が縦横しており、全く気候の異なる 3 つの地域に分かれています。

●コスタ (海岸砂漠地域)

太平洋に面した標高 500 m ぐらいまでの海岸地域で、広い砂漠が続き、アンデス山脈から流れる河川の河口に発展した都市があります。南部は冬季と夏季に分かれますが、12℃を下回ることなく、激しい寒暖差はありません。面積はペルー全体の 11% ですが、人口の半数以上の人々が住んでいます。

●シエラ (山岳地域)

コスタの東側、標高 500 m 以上からアンデス山脈を越えて東斜面 1,500 ~ 2,000 m ぐらいまでの地域を指します。面積はペルーの約 31%、人口は約 35% を占めます。雨季と乾季がはっきりしており、1 日の気温差も激しく、日中 20℃以上でも、朝晩はマイナスになったりします。

●セルバ (熱帯雨林地域)

アンデス山脈の東斜面の標高 2,000 m 以下の地域です。標高 700 m 以上の高地ジャングルとそれ以下の低地ジャングルがあります。面積はペルー全体の約 58% を占めますが、人口は約 12% です。

多民族な国家

ペルーで一番多いのは、インティヘナと呼ばれる先住民 (45%)、次に多いのはメスティソと呼ばれる先住民と白人の血を引く人々 (37%)、そしてヨーロッパ系の白人 (15%) で、中国や日本からの移住者もいます。総人口の約 3 分の 1 は首都リマに住んでおり、リマは南米で第 4 の都市です。

多様な動物・植物

ペルーは海岸地帯、山岳地帯 (アンデス山脈)、森林地帯 (アマゾン地域) に分けられ、世界でも屈指の豊かな自然があります。

分類	種類(数)	世界順位
哺乳類	508	3 位
鳥類	1,857	3 位
爬虫類	469	5 位
両生類	662	3 位
淡水魚	1,300	3 位
植物	25,000	4 位



ペルーには 3,500 種類の蘭があり、その 80% がペルーでしか見られません。



ジャガイモ、トウモロコシ、唐辛子はアンデス地域が原産で種類も豊富です。

豊富な鉱物資源

銅、金、亜鉛、鉄、液化天然ガスなどが取れ、主な輸出品となっています。



▲ピニクンカ山

地層に含まれている鉱物が酸化している
とりのりの層をうみだしています。

プレ・インカ文化、インカ文化

ペルーでは紀元前 8000 年頃から人々の定住がはじまり、太平洋岸から山岳地帯に移住しインカ帝国を形成しました。5,000 以上の遺跡が発見されています。



インカ時代の人々は傾斜が急な土地を開墾して農地としました。



シパンの遺跡 AC100 ~ 700 年

ルイス・アルフレド・エスピノサ・アギラール総領事に愛知県とペルーについてお話を伺いました。

愛知県には、日本の中で第2位のペルー人コミュニティがあり、経済的にも重要な位置にあります。

本年、日本とペルーの外交関係 150 周年を記念して、愛知県知事のペルー訪問やペルー共和国として名古屋で開かれる展示会への参加などが予定されており、愛知県とペルーのさらなる友好関係を強めていきたいと考えています。

私は、9 か月前に愛知県に来てから、まちを歩いて回りました。ゆっくりとまちを見ることにより、自然、建物、習慣や文化、人々など、ペルーとの違いや共通点を発見しました。例えば、朝の地下鉄は静かでペルーと違っていますが、帰りにはおしゃべりをしている人も多く、ペルーと同じです。そこに住んでいる人には当たり前になっていることが、外からの視点では、新鮮に映ります。

人々についていうと、日本人とペルー人は勤勉で、他の国と比べると、親切で陽気であるところが似ています。また、ペルーでは友人に日系人もいましたので、日本にいても知り合いに囲まれているように感じます。

先日、私は津島東小学校へ出向き、ペルーを紹介するイベントを行いました。日本には、長い歴史と豊かな文化がありますが、ペルーは多様な気候、豊かな自然を持ち、生物種や固有種が多い生物多様性の高い国です。さらに、人種や文化も様々です。スライドなどを使いペルーの地理や文化のほかに、日系人のペルー社会での活躍や、日本とペルーのフュージョン料理が世界的に知られていることもお伝えしました。日本の人々が、ペルーに興味を持ってくれるのは、とても喜ばしいことです。また、昨年の 11 月、愛知県国際交流協会において『「プカラの牛」巡回展（ペルー高原の大使）』という展示会を行い、愛知県知事を始め多くの方にペルーの文化を紹介いたしました。

多くの移住者を受け入れている愛知で、市や町で多言語でのサービスを受けられるのはたいへん素晴らしいことだと考えます。在住のペルーの方々も、日本の文化を理解しながらも、ペルーの文化を子どもたちに伝えて欲しいと希望しています。日ペルー外交関係 150 周年を機に、両国の交流が様々な分野において一段と活発になることを期待しております。



ルイス・アルフレド・エスピノサ・アギラール
総領事

在愛知 23 年のルイスさん一家にお話を伺いました。

ルイス・ブルネス・リカルドさん（愛知ペルー文化交流協会（APEAA）創設者 / 犬山市ニュースレター通訳ボランティア）
ルイス・親川・リカルド・ダニエルさん（犬山コミュニティ通訳者）

1990 年に「出入国管理及び難民認定法」が改正され、日系人とその配偶者や子どもたちに定住者としての在留資格が認められました。

ルイスさんの一家は、母国の経済が悪化していたため、一家で犬山市に越して来られました。ペルーで、オフィスワークをされていたリカルドさんは、2000 年に賃金の良い仕事を求めて来日しましたが、日本語を理解すること以外に長時間の工場勤務に苦労されたそうです。

被災者を助けようと協会を立ち上げる

2007 年、ペルーのイカ県で大地震が発生しました。リカルドさんは被災した人を救おうという思いで、愛知ペルー文化交流協会 Asociación Peruana de Aichi Apoyo (APEAA) を立ち上げました。Apoyo とは、サポートを意味します。その翌年、リーマンショックが起これ、夫婦ともに職を失い苦しい時代を経ました。それでも、在日ペルー人が自立して生活できるよう、仕事や学校など生活に役立つ情報を提供するセミナーを開催したり、日本人に対して、ペルーの文化を紹介するため、料理教室や、ペルー領事館と協力して写真展を開催するなどの活動を続けました。その後、体調を崩し、活動を続けることが難しくなりましたが、現在も、犬山市の情報誌をスペイン語に翻訳するボランティア活動を行い、ペルー人などが在日外国人が日本社会のなかで安心して暮らせるよう「橋渡し」をされています。

目標に向かい努力する

息子のダニエルさんが来日したのは、11 歳の時です。ペルーで週 2 回、日本語を学ぶ学校に通っていましたが、日本の授業についていくのは簡単ではありませんでした。しかし、大好きなサッカーが盛んな高校に行きたいという目標のため、勉学に励み、希望の高校に入学しました。大学を目指そうとした矢先、リーマンショックで両親が仕事を失い、働きながら専門学校に行く道を選びました。現在、製造業につきながら、自宅を購入。また、犬山市のコミュニティ通訳の資格をとり、市の窓口などでスペイン語の説明が必要な方を助けています。また、2021 年ペルー独立 200 周年を祝うペルー映画祭愛知会場で、APEAA のメンバーとして、映画の中で登場する料理を通じてペルーの魅力を伝えるなどの活動がされています。

今後は、日本以外で働く選択肢も視野に入れながら、将来に向けてさらなる努力をしていくそうです。



▲ルイスさん一家（向かって右が父・リカルドさん、左が息子・ダニエルさん）



▲ペルー展の様子



▲映画祭でペルー料理の説明をするダニエルさん